

Ⅱ 「学びの変革」の“深化”

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について

人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じており、学校・教育・学びの「アップデート」が必要となっている。

本県においては、令和元年度から「個別最適な学び」に関する調査研究を実施し、令和2年3月には、これからの学校や学びはどうあるべきかという視点に基づき、「個別最適な学び」の実現に必要な観点などについて、「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」（以下「提案」という。）として整理した。さらに、令和2年度から2年間、「個別最適な学び」に関する実証研究として、県内4地域の指定校において各学校の教育目標の実現に向け、子供たちの実態（学習進度や能力、関心等）に応じた多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動に取り組み、令和4年度からその実践を県内へ普及するため、教職員研修等を実施し、推進を図っている。

1 「個別最適な学び」について

（1）「個別最適な学び」が求められる背景

本県では、グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築を目指して、「広島版『学びの変革』アクション・プラン（平成26年12月）」に基づき、各学校において、全ての児童生徒の主体的な学びを促す教育活動に取り組んできた。これまでの各学校の取組によって、令和2年3月時点では、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」児童生徒の割合が増加し、学習の仕方が改善されているなどの成果が見られている。一方で、「広島県『基礎・基本』定着状況調査（児童生徒質問紙調査）」の結果によると、「主体的な学び」に向かっていない児童生徒が1割程度みられ、さらに、主体的な学びの定着度合い（＝課題発見・解決学習に関する質問項目に対する肯定的な回答数）の減少に連動して、自己肯定感や学ぶ楽しさ・できる喜びが低下している状況がみられており、様々な要因から授業に参加できていない、あるいは、意欲的に学習できていない児童生徒がいることから、一斉指導を前提としたカリキュラムだけでは主体的に学ぶことが難しい児童生徒がいると捉えている。

学習指導要領（平成29年告示）の総則「第4 児童（生徒）の発達への支援」においても、「児童（生徒）が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童（生徒）や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応

じた学習、児童（生徒）の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れること（中略）」と「個に応じた指導」の充実を図ることが示されている。

また、令和3年1月に中央教育審議会から答申された「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」においても、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている中、子供たちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、子供たちの資質・能力を育成することが求められている。

参考HP：文部科学省

「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

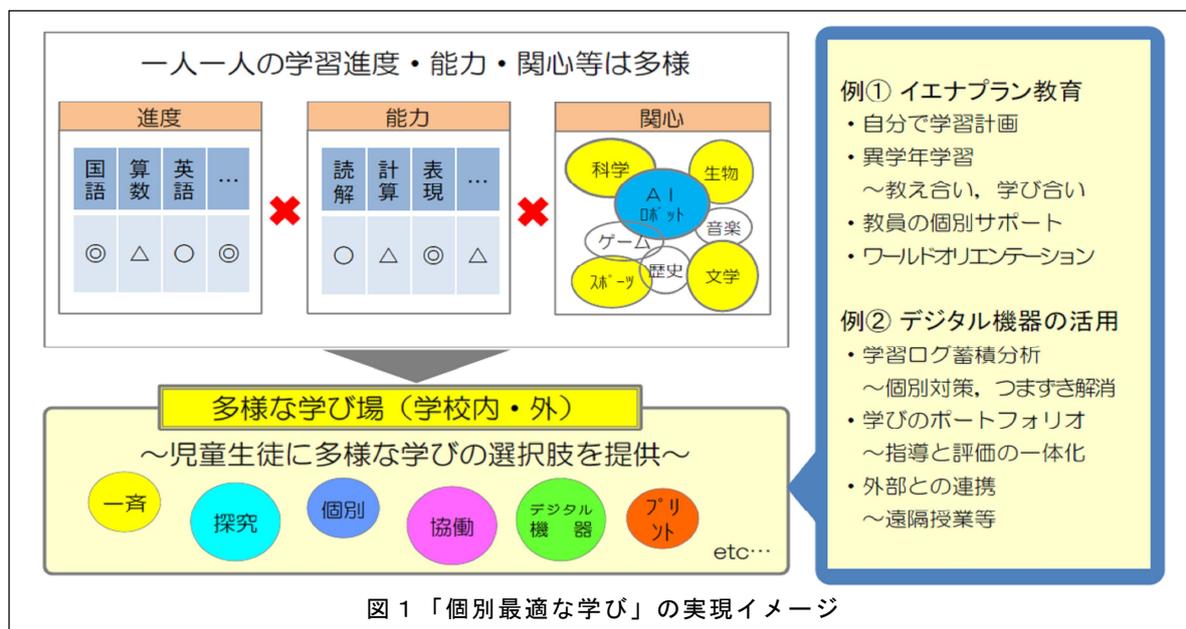
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm



（２）「個別最適な学び」を推進していくために

「個別最適な学び」とは、児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じた、それぞれに最適な学びのことであり、児童生徒一人一人に多様な学びの選択肢を提供することで、基盤的な学力の習得も含め、主体的に学び続けることができる状態を目指している。（図1）



「個別最適な学び」を実践していくためには、まず、全ての教職員が学習者基點に立ち、対話を通して、各学校の教育目標に基づいた目指す児童生徒の姿を具体化して共有することが必要である。さらに、各学校が目指す児童生徒の姿に向け、どのように教育活動を進めていくのかについて、「個別最適な学び」に必要な観点（学びの環境、学びの内容、学びの進め方、学びの集団、学びの評価など）

を踏まえて、これまでの一斉指導を前提とした指導形態に捉わられることなく、子供たちの多様性を尊重し、柔軟に検討していくことが必要である。(図2)

多様な学びの選択肢を提供する方法としては、例えば、イェナプラン教育において見られる自分で学習計画を立てることや、デジタル機器を活用して学習ログを蓄積し、個々の児童生徒の状況を把握し、つまずきの解消を図ることなどが考えられる。

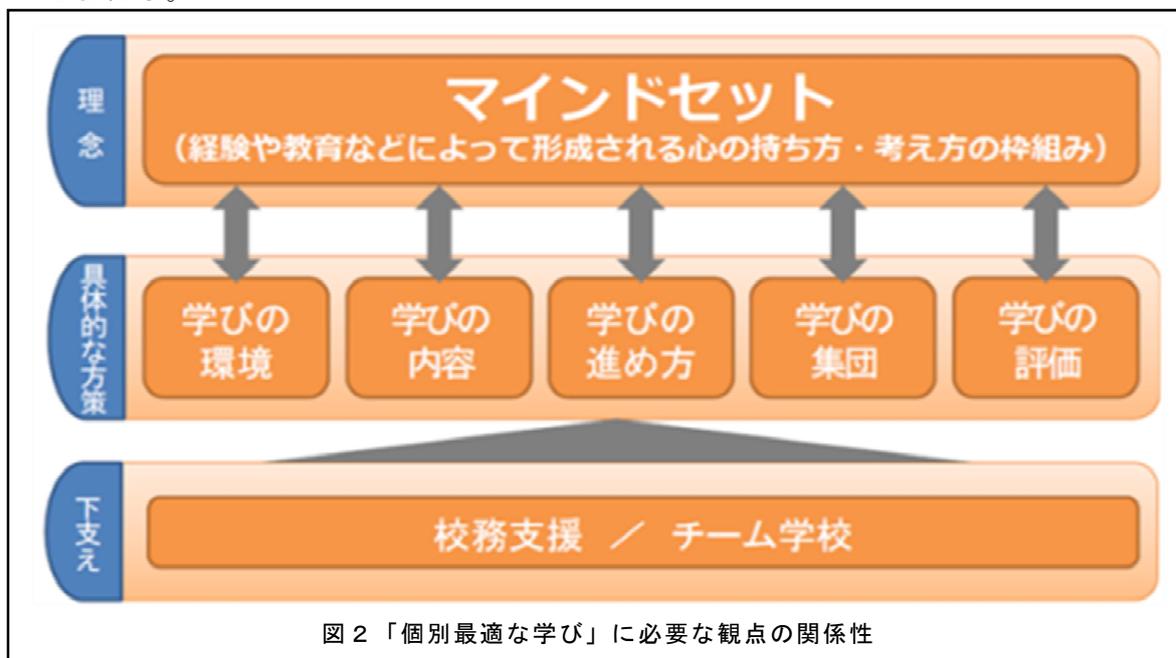


図2 「個別最適な学び」に必要な観点の関係性

＜福山市立常石ともに学園（イェナプラン教育校として設置）における取組＞

福山市では、再編後の常石小学校の施設を活用し、令和4年4月にイェナプラン教育校を設置しており、第1学年から第3学年、第4学年から第6学年の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行っている。

各教科の基礎的な内容について、自分で選択したり教師から示されたりした課題に取り組む「ブロックアワー」では、子供たちは、自分で時間割を作り、一人で取り組んだり異年齢で考え合ったりしながら学んでいる。教科の学習で学んだ知識と関連付けながら協働的に学ぶ「ワールドオリエンテーション」では、子供たちが自ら生きた本物の題材から問いを見出し、探究している。異年齢の集団であることで、多様な見方・考え方、感じ方、経験や知識を交流しながら学ぶことができる。



ブロックアワーにおける児童の学び

参考HP：福山市立常石ともに学園ホームページ
<http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-tsuneishi/>



(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて

令和3年1月に中央教育審議会から答申された「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて、これからの社会で求められる資質・能力の育成を図るため、誰一人取り残すことなく全ての子供たちに対して「個別最適な学び」の実現を図りつつ、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」と一体的な充実を図ることが求められている。

実際の学校における授業づくりにおいては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられ、例えば授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していくことが大切である。(図3-1)



図3-1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

本県では、資質・能力を育成するための単元(題材)を構想し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業を展開するために、より「深い教材研究」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」のそれぞれの場面において、教師が個々の状況を丁寧に見取ること(「個の見取り」)、個の状況に応じた「個への支援」をしていくことを大切にしている。(図3-2)

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

深い教材研究

- 単元(題材)で育成する資質・能力を明確にしていますか。
- 児童生徒の深い学びを促し、教科の本質に迫る「単元を貫く問い」などを設定していますか。
- 児童生徒の思考の流れを想定した単元(題材)を構成していますか。
- 多様な個性・特性を有する児童生徒が存在することを前提として、授業において起こりうるつまずきとそれに対する支援を想定していますか。

個の見取り

- 児童生徒一人一人の興味・関心や能力・特性等を把握していますか。
- 授業において、展開や振り返りの場面で、児童生徒一人一人の学習進度や学習到達度、つまずき等を把握していますか。(形成的評価)
- 単元(題材)の終わりに、児童生徒一人一人が単元(題材)で育成する資質・能力を身に付けることができたか把握していますか。(総括的評価)

個への支援

- 児童生徒が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・学習方法・ペース等を選択できる学習環境を整えていますか。
- 個別最適な学びの中で孤立した学びに陥らないよう、また、協働的な学びの中で個が埋没しないよう、児童生徒一人一人に適切な指導や関わりを行っていますか。

図 3 - 2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

参考HP：ホットライン教育ひろしま

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント」

<https://youtu.be/uKJcArqhX4g>



参考HP：文部科学省

「「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』」

<https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6>



2 具体的な取組事例

(1) 「個別最適な学び」に関する実証研究指定校等における取組

本県では、令和2年度から2年間、県内4地域で実施した「個別最適な学び」に関する実証研究指定校及び県内で「個別最適な学び」に取り組んでいる実践校の取組の概要を県教育委員会ホームページ「ホットライン教育ひろしま」において紹介している。実証研究指定校においては、学校教育目標の実現に向け、多様な学びの選択肢の提供と自己決定場面の設定を意識した教育活動を推進しており、結果児童生徒の92%に資質能力の伸びが見られるなどの教育効果が得られている。

なお、実践事例や教育効果等の詳細について、下記リンク先ページ「個別の状況の応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」(図4-1~6)にて紹介

しているので、ぜひ御覧いただきたい。

参考HP：ホットライン教育ひろしま
「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku17/kobetu-teian.html>



個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案 ～Society5.0を見据えた「学びの変革」のアップデート～

本県では、全ての子供たちの「主体的な学び」の実現に向けて、個別最適な学びに関する調査研究を進め、令和2年3月に「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に係る提案」として整理するとともに、同年4月から、県内4地域において「個別最適な学びに関する実証研究」に取り組んできました。（2か年事業）

[個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案（R2年3月）](#)

[実証研究及び教育効果の検証結果の概要（R3年3月）](#)

【具体的な実践事例】

学校名	取組概要	実践事例
廿日市市立宮園小学校	単元内自由進度学習	実践事例報告（1）
江田島市立三高小学校	イェナプランを参考にした自立・協働学習	実践事例報告（2）
三次市立みらさか学園	単元別プロジェクト学習	実践事例報告（3）
福山市立福山中学校	興味・関心に応じたMy探究	実践事例報告（4）

図4-1 個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案

個別最適な学びに関する実証研究を振り返っての気付き

Goal 全ての児童生徒の「主体的な学び」の実現

手法 子供の实態に応じた多様な“選択肢”と“自己決定”を意識した教育活動

Point 1 教職員の大切にしたい心の持ち方・考え方
(次のようなマインドセットを意識)

- 学びの主体は子供 (⇒ 支え励まそう)
- 子供は力を持っている (⇒ 委ねよう)
- 子供には多様性がある (⇒ 尊重しよう)

Point 2 子供の实態(学習進度・能力・関心等)に応じた多様な選択肢と自己決定場面を設定

実証研究校での検証結果 (教育効果)

- ◆ 子供たちの資質・能力が向上した！
～コンピテンシーが伸びた児童生徒割合:約92%
- ◆ 自己決定すれば実行力・自己効力が伸びた！
～決断力と実行力の伸びの相関:約67%
～決断力と自己効力の伸びの相関:約75%
- ◆ 子供たちの主体性・理解度・満足度が高かった！
～各アンケートでの肯定的回答
主体性:約94%, 理解度:約91%, 満足度:約93%

実証研究校での目指す姿

子供

- 自分から進んで学習しているか？
・自ら学習方法や内容を選択し、自分のペースで学んでいるか？
・分からない事を学び合いの中で自分たちで解決しているか？
- 自分の学びを本気で振り返っているか？

教師

- ◆ 子供の实態を踏まえた教材研究ができているか？
- ◆ 一人一人の学びを見取っているか？
- ◆ 個に応じた支援ができているか？

図4-2 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和2年度の取組】実証研究指定校 実践事例報告

廿日市市立宮園小学校

【単元内自由進度学習】



江田島市立三高小学校

【イエナプランを参考にした
自立・協働学習】



三次市立みらさか学園

【単元別プロジェクト学習】



福山市立福山中学校

【興味・関心に応じたMY探究】



図4-3 「個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案」

【令和3年度の取組】実証研究指定校 実践事例動画

廿日市市立宮園小学校

【自由進度学習】

3年
算数・理科



5年
算数・社会



4年
算数



6年
算数・理科



廿日市市立金剛寺小学校

【ICT活用による、児童が学び合い、
探究し続ける授業】

5年
体育



6年
国語・算数

